

第87回麻布獣医学会 一般演題22

産業動物参加型臨床実習のための牛・豚レプリカの開発

河合 一洋, 佐藤 礼一郎, 伊東 正吾, 新井 佐知子, 入来 常德, 押田 敏雄,
恩田 賢, 金子 一幸, 鈴木 武人, 須永 藤子, 武藤 眞, 和田 恭則

麻布大 生産獣医学系

【はじめに】

近年、全ての獣医系大学に対して更なる参加型臨床実習の充実と、臨床現場で即戦力のある獣医師の育成を柱とした教育が求められており、それを達成するための新コアカリキュラムが実践されようとしている。麻布大学は、関東圏の獣医系大学の中では産業動物臨床教育において、全学生を対象に、学内でコアとなる参加型臨床実習を実践してきており、この点は特筆できると思われる。基本的に獣医系私立大学において最も問題となるのは、限られた産業動物を用いて多くの学生を対象に技術的指導をしなければならないことであり、このことは、動物に過度な苦痛を与えるなど、動物福祉の観点からも課題を抱えている。

本学では、平成23年に文科省「口蹄疫等家畜伝染病に対応した獣医師育成環境の整備事業」の資金により、獣医学科生産獣医学系教員が担当して、参加型臨床獣医学教育に供するための牛と豚の等身大レプリカを開発した。牛・豚レプリカの利用目的は、生体に触れる前にその生体機構と疾病との関連性を再認識し、また、臨床面での基本的技術の修得を、レプリカにより随時かつ多数の学生を対象に、詳細かつ具体的に繰り返し指導し、さらに生体への負担を減らすことにある。これにより教員は、学生個々の修学度を明確に確認でき、よりの確な指導を実施できる。

【牛・豚レプリカの仕様】

開発した等身大レプリカは、それぞれの臓器が外れ

るように設計されており、臓器の位置関係や疾病と病因の関係とその診断法、頸静脈採血の練習、さらには直腸検査による卵巣の触診実習が実施できるシステムとした。または牛では、超音波診断装置を用いた卵巣疾患の診断と、妊娠子宮モデルを用いて胎子雌雄判別の技術習得もできるように配慮した。

【実習への利用と今後の展望】

豚のレプリカを利用した臨床実習は、本年8月に(社)中央畜産会(家畜衛生対策推進協議会)による「平成24年度産業動物臨床実習」において、全国の獣医系大学の希望学生から選抜した10名を対象に活用し、理解度を高める効果を確認している。

この実習における参加学生の反応も高い評価が得られており、①採血時の注射針刺入角度が容易に理解でき、実際に血様液体が出て感動した。②生殖器の位置関係がイメージしやすく、多様な形態の卵巣が用意されているのも良い。③豚に優しい。というような感想が聞かれた。

学生数の多い私立大学の産業動物臨床実習において、参加型臨床実習を充実させることは、必然的に動物への負担を強いることになる。そのような中で、動物福祉に配慮した代替法を取り入れた教育は、これからさらに重要となってくると思われる。今後は、レプリカを使用したことによる教育効果について、実習学生を対象に調査し、また、改善点についても検討したい。